

私、米澤則寿は、本年4月10日告示、4月17日執行予定の帯広市長選挙に出馬することを決意いたしました。

去る1月16日に、連合後援会から出馬要請をいただき、慎重熟慮いたしました結果、出馬の決意に至ったものです。

これまで3期12年、市民の皆さんの絶大なるご支援をいただき、公約の実現とまちづくりに真摯かつ誠実に努めてまいったところであります。

4期目へのチャレンジにあたっては、これまでの3期の単なる延長ではなく、改めて初心に戻って、市長としての責任の自覚、勇気をもって使命を全うする覚悟の所在を自らに問いかけてまいりました。

世の中が加速的に変化する中、さらにコロナ禍が加わり、経済再生は極めて難しい状況にあります。

立ち上がり前進するには、経済的な感覚と経験を持ち、かつ、市民の皆さんとさまざまな関係性を築いてきた人間が市長をやることが必須であり、ベストであるとの思いに至りました。

十勝・帯広の、コロナ後の「新しい未来」をつくること。

フードバレーと かの「New Stage」に向けた4年をつくるために、後には引けません。

司馬遼太郎の「峠」は、私の愛読書の一つですが、主人公の河井継之助が出处進退について次のように語っています。

「人が世にある時、もっとも大切なのは、出处進退。  
進むと出ずるは上の人助けを要さねばならないが、  
処ると退くは人の力をからずとも自分でできるもの」

最近、これを曲解して、政治家が保身の方便にする残念な事態が散見されますが、本来の趣旨は自明だと思います。

市長選挙に出馬するということは、後援会をはじめ市民の皆さんの応援という助けがあって初めてできることです。

先週、後援会から正式に要請文をいただき、併せて多くの皆さんから後押しする声をいただきました。

私の人生にとっても大切な出处進退ですが、私、米澤則寿は、本年4月に執行予定の帯広市長選挙に立候補することを決断いたしました。

令和4年1月23日